

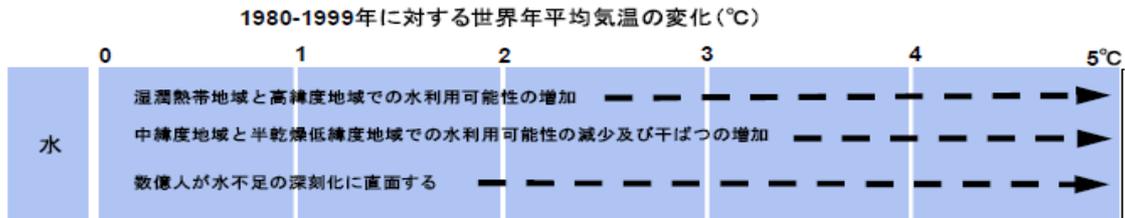
地球温暖化による水環境への影響について

1. 今後懸念される影響

2007 年、気候変動に関する政府間パネル（I P C C）は、第 4 次評価報告書第 1 作業部会報告書において、気候システムの温暖化は疑う余地がないと断定した。世界平均気温の上昇、世界平均海面水位の上昇、雪氷の広範囲の融解等の観測により、今や温暖化が生じていることは明らかとなっている。

水環境については、水温、降水量の平均値の量的な変化ならびに時期の変化により、河川流量の変化、積雪量の減少、融雪時期の変化、湖水水位の変化、水質の変化等が生じ、水供給への影響、生態系への影響が現れるおそれがある。また、海面上昇が想定される場合には、沿岸部で地下水塩水化としての影響も懸念される。水量や水質の変化を通じて農業生産、自然生態系、防災、健康など広く他分野にも影響を及ぼすことが懸念される。

世界平均気温の上昇による主要な影響
 （影響は、適応の度合いや気温変化の速度、社会経済の経路によって異なる）



注：破線の矢印は気温上昇に伴って影響が継続することを示す。

出典：『I P C C 第 4 次報告第 2 部政策決定者向け要約』

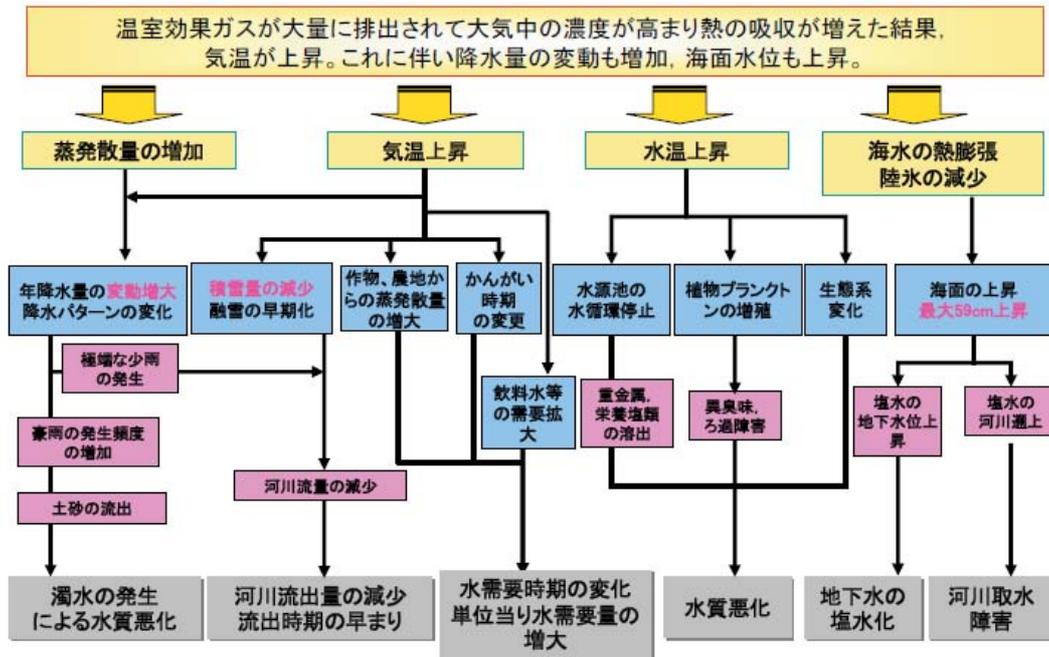


図 気候変動による影響（地球温暖化が水資源に与える影響）

出典：国土交通省『平成 21 年度版日本の水資源』

2. 気候変動による影響が一因と思われる事例

他の要因もあるため現時点では必ずしも気候変動による影響とは断定できないが、気候変動による影響が一因と思われる事例が発生しており、気候変動が進行すればさらに類似の事象が増加する可能性がある。

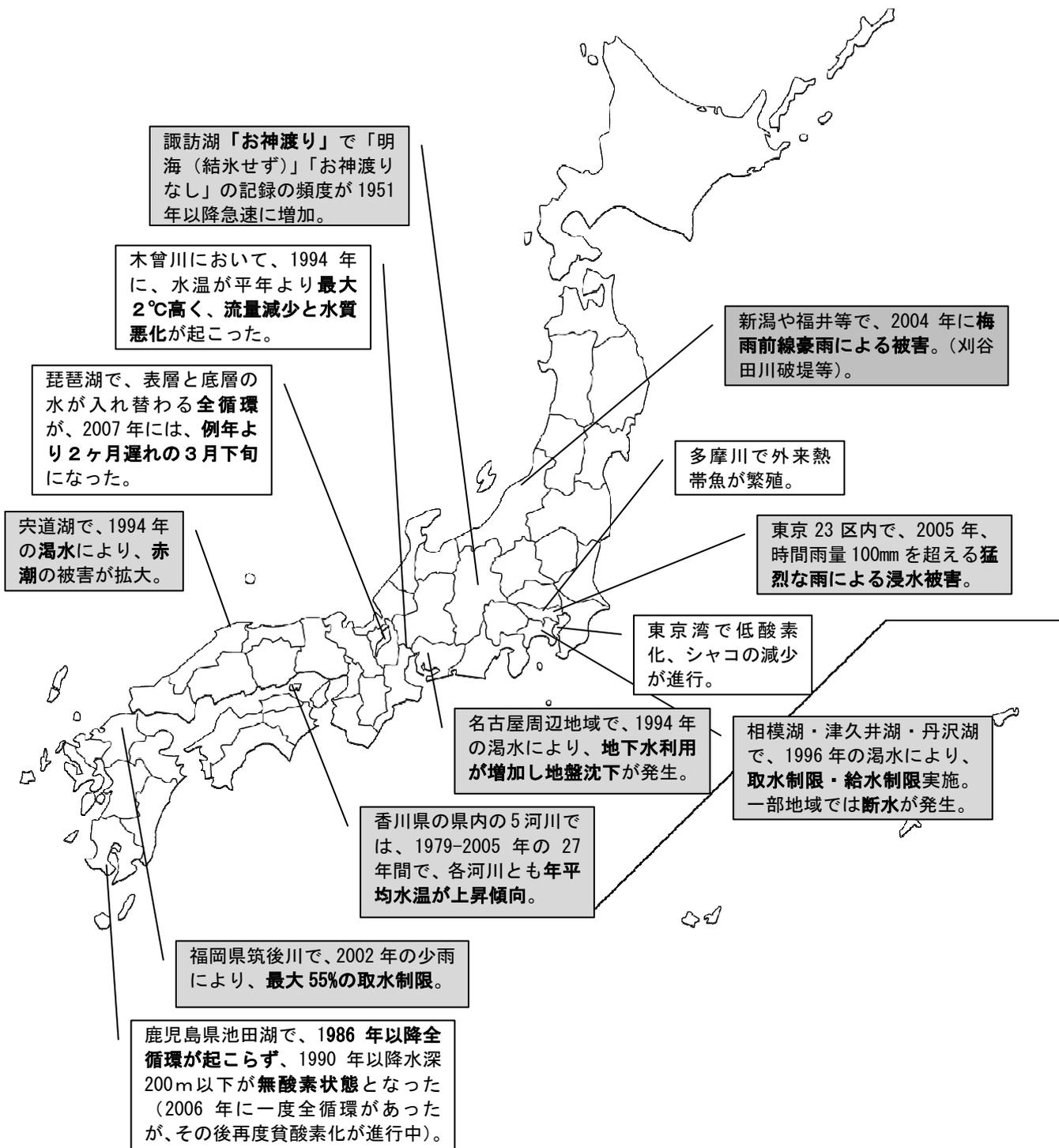


図 気候変動の進行に伴い、懸念される事象の既存類似事例

□部分出典：環境省『気候変動への賢い適応－地球温暖化影響・適応研究委員会報告書－』から抜粋。